



市内出土の縄文土器

第8回 掛川考古展

# 縄文時代の掛川

と き 平成24年11月21日(水)～28日(水) 午前9時～午後5時

ところ 掛川市立大須賀図書館 2階ギャラリー

掛川市教育委員会

## 縄文時代

土器が使用され始めた今から約1万6,500年前から、稲作が生活の中心となる弥生時代(約2,500年前)が始まるまでの間を「縄文時代」と呼んでいます。縄文時代は、土器と弓矢の発明により、生活に大きな変化が起こりました。豊かな自然環境の中で、狩猟や採集を中心とした独自の文化をつくっていました。

掛川市内ではいつごろから人々の生活が始まったのでしょうか。今回の展示では、市内の縄文時代の様子を紹介していきます。市内には70数カ所の縄文時代の遺跡が知られています。その中で掛川市で一番古い土器は、早期(8,000年前)の押し型土器と呼ばれるものです。そして、市内では、草創期(1万3千年前)の尖頭器(槍の先に付けて狩りをする道具)が最も古い道具です。

## 土器

土器は、粘土を成形して火によって焼いた器で、煮炊きをするために作りだされたと考えられています。それまでは、焼くか焙るかしないかぎり、生で食べるしかありませんでした。しかし、アクがあるためにそのままでは食べられなかった物が、土器で煮ることによりアクが抜けて食べられるようになり、食べ物の種類が増えたのです。特に、生では食べられない山菜などの多くの植物が食料になったことは、安定した食料の供給を可能にしたと考えられます。



市内から出土した縄文土器

## 狩り

縄文時代に登場した道具で、土器とともに画期的な物として弓矢があります。それまでの槍にくらべ、遠くの獲物を正確にしとめることができ、狩りの効率は格段に良くなったことでしょう。弓矢の発明により、シカ、イノシシ、カモシカ、ノウサギ、タヌキなどを食べることがで



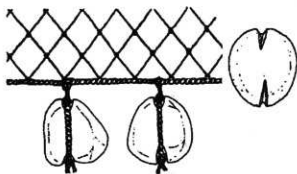
槍先(左)と石鏃

きるようになりました。矢の先につける<sup>やじり</sup>鏃は様々な形と大きさがあります。縄文時代の狩人がいろいろと工夫をしたことがわかります。

掛川市内での発見はありませんが、獲物をとる罫として落とし穴が掘られていました。メノト遺跡からは、イノシシの歯やキバなどが出土しており、食料としていたと考えられます。

## ぎよろう 漁労

縄文時代の遺跡から、<sup>へんぺい</sup>扁平な小石の両端を加工した遺物が出土しています。これは「おもり」で、<sup>ぎょもう</sup>漁網に使われたと考えられます。掛川市の内陸の遺跡でも出土していますので、川魚を捕ることに使用されていたのでしょう。また、当時の海岸線に立地する<sup>ちば</sup>千浜の<sup>いそぐさ</sup>糸繰遺跡や山崎の<sup>いしづ</sup>石津遺跡からも発見されています。



石のおもりの使用方法

## 採集

土器が発明されたことで食べられる物が多くなりましたが、それらは豊かな森から得ることができます。豊かな森があれば、食べ物を求めてあちこちを転々とする必要もなく、定住がはじまります。ドングリ、クリ、クルミ、トチノミなどは、カロリーが高く、貴重な食べ物でした。秋に大量に採集し、冬に備えていたようです。

アク抜きされたドングリは、<sup>いしづら</sup>石皿・<sup>たたかいし</sup>叩石と呼ばれる石の道具で、粉にされていました。



ドングリの実



石皿・叩石

## 貯蔵

市内八坂のメノト遺跡から、ドングリを貯めた穴が、20 余り発見されています。穴の底には使われなくなったカゴやザルの破片が貼り付けられており、穴の内側にも竹と考えられるヒゴで編まれた編み物がとりまいていました。中に入れたドングリを取り出しやすくするための工夫と考えられます。



メノト遺跡出土の貯蔵穴

## いのり

縄文時代の人々は、私たち以上に自然の直接的な影響を受けていたのでしょう。道具の中には、どういう用途なのか良くわかっていない変わったものがいくつもあります。石棒や石剣あるいは、妊婦をかたどった人形である土偶は、掛川市内でも破片で発見されています。いのりの道具であったことが考えられます。



中西遺跡から出土した石棒

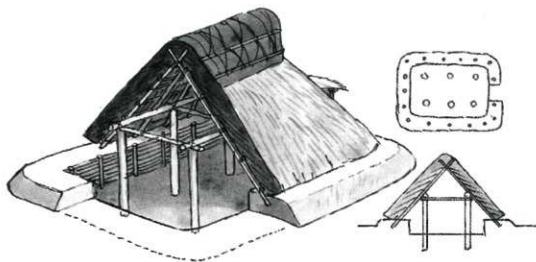


人の顔を模した土器と土偶の腕

土製の耳飾

## 自然とともに

縄文時代の遺跡から見つかる木の年輪は、30年程度を数えるものが多いという一説もあります。樹木は30年を越えると芽が出にくくなるようです。クリもあまり年数が経過して古くなると実のつきが悪くなるので、そういう木は切り倒されたのではないのでしょうか。そして、住居の材料に利用されたのではないかと考えられます。また、大きな実をつける木は大事にされますが、実のつきが悪い木は切り倒され、その結果大きな実がつく優良な木だけが残り、優良な木同士の交配により、さらに大きな実がとれたと考えられます。これは、積極的ではないものの、結果的に管理をしたことによる栽培であるといえます、なお、メノト遺跡からは4cmもある大きなクリの実が出土しています。



竪穴住居跡の復元図

## 市内の縄文時代の遺跡

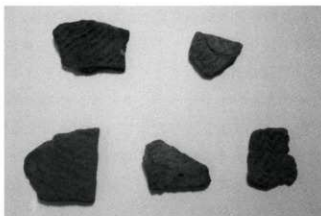
これまで調査された主な遺跡を紹介します。

### 向畑遺跡 八坂

逆川上流左岸の小高い丘陵上にある集落跡です。日坂バイパス建設に伴い平成2年に調査され、中期後半（4,000年前）の竪穴住居跡が1軒見つかっています。また、土器としては現在市内で最古となる早期（8,000年前）の押型文土器の破片が見つかっています。

はぎのどん  
萩ノ段遺跡 原里

原野谷川上流右岸の河岸段丘上に営まれた集落跡です。調査は茶園の改植に伴い行われ、堅穴住居跡、土壇などが見つかっています。早期(8,000年前)と中期の初頭(5,000年前)と後葉(4,500年前)の土器が見つかり、それぞれの時期にムラがあったようです。



出土した押型文土器

上ノ段遺跡 原里

原野谷川上流右岸の河岸段丘上に立地しています。現在、遺跡の中心部が原田小学校となっており多くの土器や石器などが採集されています。土器は中期から晩期(5,000～2,500年前)のもので、特に中期後葉と晩期終末頃(2,300年前)のものが多く出土します。遺物の中には、市内の他の遺跡では見つからない、ひすいの脛節形大珠や土偶の足などがあり貴重です。

おかつばらま  
岡津原Ⅲ遺跡 岡津

原野谷川左岸の独立丘陵上、通称岡津原に立地しています。平成9年に茶園の改植に伴う調査で中期(5,000年前)の深鉢が見つかりました。住居跡などの遺構は見つかりませんが、この付近にそのころのムラがあったことが考えられます。



出土した土器

たじま  
田島遺跡 上内田

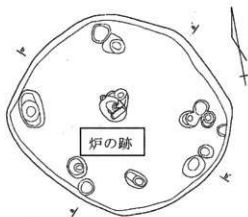
菊川に注ぐ上小笠川右岸の沖積地に立地しています。平成8年に市道改良工事により調査され、大きさ約2mの穴の中から中期(5,000年前)の土器が発見されました。これらは今まで知られていないもので、東三河地方の土器に影響を受けた在地色の強いものと考えられています。

うしどか  
牛岡遺跡 八坂

逆川上流左岸の河岸段丘上に立地しています。日坂バイパス建設工事に伴い平成2～3年に調査されました。遺跡の西南端の旧逆川の自然堤防上に堆積した土の中から大量の土器と少量の石器が見つっています。土器は早期末から中期後半(7,000～4,000年前)のものが見られますが、主体は中期後半です。それらの土器は関西地方・東海地方・中部山地の影響のあるものが混在しており、掛川地域の地域性を示しています。調査では住居跡などの遺構は見つかりませんが、調査地のすぐ近くの自然堤防上にムラがあることが考えられます。

なかほら  
中原遺跡 吉岡・高田

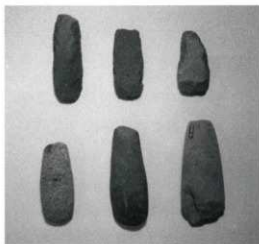
原野谷川が形成した河岸段丘上に立地しています。調査は、茶園改植や市道改良工事に伴い8回、8地点で行われ、中期中葉(4,500年前)の竪穴住居跡や土抗などが発見されています。東遠地域において、この時期の住居跡の発見例は少なく、貴重といえます。



竪穴住居跡

くろした  
メノト・栗下遺跡 八坂

隣合う両遺跡は逆川と海老名川にはさまれた低い段丘上に位置しています。栗下遺跡からは、晩期(2,500年前)の一边約5mの竪穴住居跡1軒が見つっています。中央付近には石で四角に囲んだ炉がありました。一段低い段丘面のメノト遺跡からは、ドングリなどを貯蔵した穴20基と木の実の殻の堆積や加工具が見つかったため、木の実の加工場であると考えられます。



出土した石斧

原遺跡 上西郷

倉真川右岸の台地状の丘陵に立地しています。調査は土地区画整理に伴って平成6年に行われました。倉真川に面した谷から、後・晩期(4,000～2,500年前)の土器や石器などが多量に発見されました。台地上に住居跡などは見つかりませんが、周囲の状況などからそこにムラがあったと考えられ、この谷がムラのゴミ捨て場であったと思われる。



獣の皮をはぐための石器

中西・高畑遺跡 満水

逆川中流左岸の丘陵上に立地しています。調査は農道の新設に伴い、平成20、21年に行われました。晩期(3,000～2,500年前)の竪穴住居跡1軒が見つかっています。谷部分の調査地点からは大量の土器が出土しており、周辺が土器捨て場であったことが考えられます。



出土した土器

幡鎌峯山遺跡 幡鎌

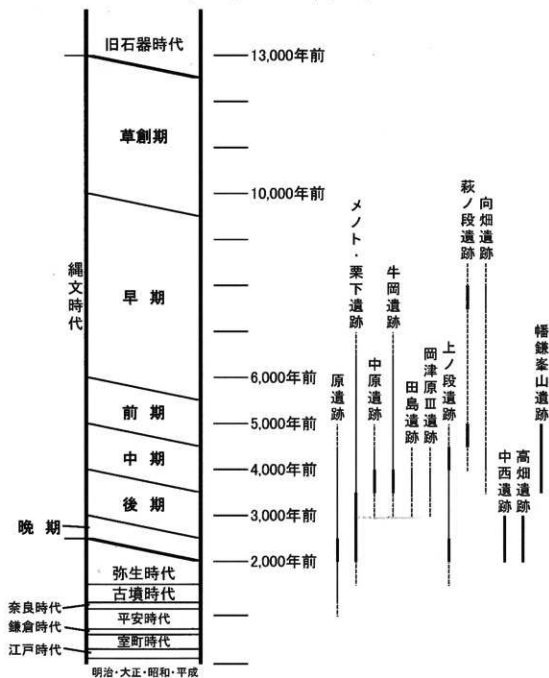
原野谷川右岸の河岸段丘上に立地しています。調査は平成22年に行われました。中期前葉(約5,000年前)と晩期(約3,000～2,500年前)の小穴が見つかっています。中期前葉の小穴からは、深鉢がつぶれた状態で出土しました。この地域では、中期前葉から人々の生活が始まり、その後断絶し晩期から再び人々が活動していたと考えられます。



縄文土器出土状態



◇ 年 表 ◇



引用参考文献

- 『掛川市史 上巻』 掛川市 1997  
 『掛川市史 資料編 古代・中世』 掛川市 2000  
 『日本歴史館』 小学館 1993

## 開発予定地内に遺跡はありませんか？ 工事計画の前に確認してください。

掛川市内には現在702遺跡が知られており、県内でいちばん遺跡の多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの「心のふるさと」であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

そのため、『文化財保護法』により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届け出をすることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をするこになり、完成が遅れてしまった—ということがないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

なお、教育委員会・図書館・支所には、市内にある遺跡の様子を示した『遺跡地図』がありますので、工事を計画する前に必ず確認してください。

掛川市教育委員会 社会教育課 文化財係  
電話(0537)21-1158



文化財愛護シンボルマーク